

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部看護学科

名前 伊藤 三佳

作成日 2024年2月26日

【責任】

看護学科に所属し、基本教育科目と専門基礎教育科目である基礎医学系の授業を担当している。主な担当科目は、「感染免疫学」、「生化学」、「病態生理学」、「薬理学」、「基礎生物学」、「フレッシュマンセミナー」、などである。また、担任学生の学修・生活指導や卒業研究の指導も行っている。他学科でも「生化学」、「解剖生理学」、「基礎生物学」を担当している。

【理念】

看護学科の学生は、基本的に卒業後に看護師になることが目標であるため、まずは看護師国家試験に合格して欲しい。また、看護師の仕事は人を対象としており、対象者が欲するものや必要とするもの、求めるコミュニケーション方法など一人ひとり異なる。対象者のニーズに答えながら、基礎的知識に基づいて必要な看護を判断し、責任をもって行動できる看護師になって欲しい。

また、医療は日々進歩することを念頭に置き、現時点での問題点を理解し、より対象者に適した看護を提供するために、新しいことを学び続ける能力を身につけて欲しい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために「基礎知識を確実に身に付ける」、「学生が授業に興味を持ち、理解度を上げる」、「やらなければならないことを知識に基づいて自主的に行う力を身に付ける」、「問題解決能力を身に付ける」、「教員自らルールを守る」ことを教育活動の方針としている。

「基礎知識を確実に身に付ける」

基礎知識を確実に身に付けるためには、日々の学修（予習・復習）が必要である。学修のために、授業のレジュメを講義開始 1 週間前には UNIPA に提示するようにしている。レジュメは重要な部分を穴埋めにしたり、わかりやすい図やグラフを用いて作成している。また、毎回の授業で小テストを行うことで、学生に学修習慣をつけさせるようにしている。小テストは授業終了後、UNIPA に 1 週間だけ提示することで授業終了後、できるだけ早急に復習するように促している。

「学生が授業に興味を持ち、理解度を上げる」

学生が興味を持ちやすいように、レジュメを使つての授業においてもアニメーションなどを入れている。また、聞き取りやすい声でゆっくり話すことを心掛けている。さらに看護に直接

かかわらないと思われがちな専門基礎教育科目においても、他の看護の科目と関連していることを説明したり、小テストに国家試験問題を入れることで1年生のうちから授業への興味を持つことができるように工夫している。

「やらなければならないことを知識に基づいて自主的に行う力を身に付ける」

授業において、小テストや穴埋めのレジュメを提示することで、学生自らが学修するようになっている。また、卒業研究では学生自身にテーマ、研究計画を立案させている。否定することはせず、なぜそのように考えたのか、なぜそれが必要なのかを説明させることで、学生が主体的に研究を進めさせ、自主的に研究を全うできるようにしている。研究を計画的に進めることで、しっかりと学修時間をとり、国家試験に臨むことができるようにしている。

「問題解決能力を身に付ける」

授業を聞いてわからないことなどを自ら解決させるため、授業終了後やメールなどでいつでも質問を受け付けるようにしている。レジュメの穴埋めの答えや小テストの答えをそのまま渡すことなく、まずは学生自身に答えさせ、間違えている場合はなぜ間違えたか考察させるようにしている。さらに教科書の該当ページなどヒントを与えることで、自ら答えを導き出せるように指導している。また、担任としての学修・生活指導においても、できるだけ学生の自主性に任せながらも、必要な時には学生に連絡を取り、期限を設けた上で返答を待つようにしている。いつでも連絡を受け付けることで、疑問点や不明点がある場合に学生が安心して質問や相談をすることができるようにしている。

「教員自らルールを守る」

授業などの際、開始・終了時間を厳守するようにし、社会人として最低限のルールを厳守する姿を示している。

【成果・評価】

- ・ゼミ生の国家試験合格率は今年度まで100%である。
- ・授業評価アンケートにおいて、授業目標を達成したと答える学生が80%以上である。同様に授業に意欲的に取り組んだと答える学生が80%以上である。
- ・授業評価アンケートにおいて、授業の目的や達成目標で示された能力・資質を身に付けるような工夫がなされていたと答えた学生が80%以上であり、プリント資料（レジュメ）や小テストについて多くの学生から好評な意見が得られている。

【目標】

短期目標

- ・授業のレジュメや小テスト内容を改善し、理解しにくいところをなくし、国家試験に出た重要な部分の知識を身に付けられるようにする（2024年度以降）。
- ・ゼミ生の国家試験合格率100%をできるだけ維持する（2024年度以降）。
- ・学生の卒業研究を論文として発表する（2024年度以降）。
- ・UNIPAをさらに活用するため、アクティブラーニングなどの講習会に参加し、多くの教育法を学び授業を改善する（2024年度以降）。

長期目標

- ・学外、学内FD・SD研修会などに参加し、教育方法の改善を行い、学生の教育に生かしていく。
- ・自分の担当する科目に対応するDPの2「課題を発見し、問題を解決する力」と3「専門的知識・技能を習得し、実践する力」をしっかりと身につけて卒業できるようにしていく。